

日本共産党 党市議団 団長 南区選出

あらき 由美子

荒木ゆみこ



<プロフィール> ●党横浜市議団長 5期目 ●政策・総務・財政常任委員 ●元保育士 ●現役の消防団員 ●1959年
生まれ ●県立清水ヶ丘高卒(現 横浜清陵高) ●京浜女子大(現 鎌倉女子大)家政学部児童学科卒 ●六ツ川台団地在住

f t あらき由美子 検索

横浜市会では2月19日(火)、新年度予算に対する各会派の代表質問が行われ、日本共産党からは、あらき由美子(南区選出・党市議団団長)が登場し、崖対策を担当する職員の増員や、税金の使い方を市民の暮らし応援、命と安全を守ることを最優先にすることを林文字子市長に迫りました。

崖地対策申請数は21件のみ 職員13人では不十分すぎる

市の崖地対策の担当職員は13人しかいません。2018年度の崖地の防災対策と減災対策の工事助成金の申請は計21件しかなかったと指摘。危険な崖地は南区だけでも164か所あり、「現場

に行く職員を増やし、丁寧に対応できる体制をつくることこそ必要だ」と迫りました。

市長は、「足りないだろうというご心配はない」と強弁しました。

新年度予算案の特徴

「花博」・新市庁舎など4事業に職員70人増やすなら

危険な崖地対策の職員こそ増やすべき

横浜市は「国際園芸博覧会(花博)招致推進室」の設置や、花博、東京五輪、新市庁舎、ラグビーワールドカップの4事業の担当職員は70人増やす一方、命の危険があり、緊急対策が必要と市が判定した1364か所の崖地対策を行う担当職員は増やしていません。あらき議員は「市長は市民の命と安全・安心を軽視し

ている」と批判し、転換を求めました。

市長は、「民間事業者の力を借りて現地確認を行う体制を構築している」と答え、政策転換を拒否しました。

命の危険がある

崖地

市内
1364か所

南区164か所

赤茶色

土砂災害警戒区域



南区土砂災害ハザードマップ (H26.12月時点)

早急な対策を!
実現できるまで
がんばります。

